

広報TSB

第5号

平成26年8月1日発行

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

心優しい若者たちと

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学長 秋葉 征夫



東北生活文化大学を擁する三島学園は本年度創立百十四周年を迎えます。学長室から望む創立者の三島駒治先生と三島よし先生の胸像の周りの緑も色濃くなり、桜の時期に訪れていたヒヨドリも姿を見せなくなってきました。

六月初旬に和洋女子大学（千葉県市川市）の学長と同窓会長を始め八名の方々が本学を訪れました。和洋女子大学と本学との結びつきは三島よし先生の時代に遡るようです。三島よし先生は明治三十一年（八九八年）から三十二年（八九九年）にかけて和洋裁縫女学校（現・和洋女子大学）で洋裁を学ばれて、その課程を修了されており、その素養と技術を持って明治三十六年（九〇三年）に創立された東北女子職業学校での女子教育に活かされたものと思います。和洋裁縫女学校では三島先生の他に、大妻学院を創設された大妻コタカ先生、植草学園大学を創設された植草竹子先生、郡山女子大学を開設された関口富左先生を始め多くの女子教育の先達を輩出しており、三島よし先生もその時代が醸し出していた「高い志」を身につけ、この東北で女子教育という新たな領域に踏み出されたのではないのでしょうか。

ヒヨドリは日本では周年見られますが、秋には暖地に渡る個体も多いとのこと。「渡り」は鳥類の持つ大きな特徴の一つです。シベリアと日本

を往き来するマガモやオオハクチョウ、北米と南米間の七〇〇kmを渡るムラサキツバメ、ヒマラヤの八〇〇〇m級の山々を酸素マスクもつけずに越えるアネハツルやインドガン、繁殖期を除く約七カ月間をほぼノンストップで飛び続けてスイスと越冬地の西アフリカを往復するシロハラアマツバメなど、鳥類の持つ多様性と生命力そして能力には驚かされます。渡りの航法についても研究されており、「太陽コンパスを使う」、「星の配列を読む」、「風と天気を読む」、「地球の磁気を読む」そして「経験に学ぶ（におい、音、地形、色などの判断）」を駆使しているようです。よく渡り鳥のV字編隊飛行を見かけることがありますが、これは渡りが初めての若い鳥を囲んで経験豊かな鳥が先導を務めて飛行している隊形だとのこと。この世界の生物も、子どもが十分な能力と力をつけるまで手厚く教え育てるのが共通だと感じます。子どもたちが小中高校を経て大学や短大に入学し、自分で考えて判断し、自立的に生きそして社会で活動するための知恵と技術を学び取るまで、手を貸さなければなりません。それが私たち教職員の仕事であり、学生は自らが「学習する」という意欲の下で行動することが求められています。そして保護者がサポートすることも大事になります。

近年はこれまでの「教える」教育から、学生が「学習する」教育へシフトすることが要請されています。本学でもディプロマ・ポリシー（卒業の要件）を明確にし、学生が「学習する」目標に向かって努力できる環境づくりに努めています。「学習する」場は大学・短大内にあるだけではなく、広く地域・世界にもあります。本学が推進している「ワクワク〇〇ぶろじえくと」で「心優しい若者たち（学生）」と教職員が一体となって地域に飛び出し、地域にワクワクを伝え、創り出していく活動の中で学習することも大事にしていきたいと考えています。



大学家政学科

短信



家政学科では昨年度から今年度にかけてのスタッフの変更はなく、昨年度と同じメンバー二十四名で新学期を迎えました。

四月は入学式やウェルカムパーティ、ガイダンス、健康診断などの新年度をスタートする行事が続きました。新学期でまず大切なのは、二年間の履修計画を立てることです。取得資格や卒業後の進路など、将来の道筋を見極めて、履修する科目を選択する必要があります。本学では、履修計画を立てる際に、担任が学生一人一人の状況に応じて、きめ細かくアドバイスします。

五月は連休でほとと二息ついたあと、落ち着いて授業に取り組む時期になります。この頃になると、二年生たちもだんだんと大学生活になじみ、四年生たちは内定を取り始めるようになりました。

五月九日には平成二十五年度の管理栄養士国家試験の結果が発表され、本学健康栄養学専攻では八十二%の合格率という好成績を収めることができました。

六月十四日には体育祭が開催され、家政学科の学



生たちは競技への参加や体育祭の運営に大活躍しました。二十一日には今年度最初のオープンキャンパスが開催され、家政学科の教育内容に基づいた模擬授業と体験講座を行いました。このオープン

キャンパスでは、参加者の昼食として、健康栄養学専攻の教員と学生によるオリジナル弁当がつくられ、ヘルシーで美味しいと高校生や保護者の方たちに大変好評でした(写真参照)。

七月は前期の授業の仕上げの時期であり、最後に試験が行われます。

夏休みになると、服飾文化専攻の学生を中心として、本学の一大イベントである大学祭ファッションショーのリハーサルが本格的に行われます。

学生たちが充実した夏休みを過ごして、九月にまたキャンパスがにぎやかになるときを楽しみにしています。



大学生生活美術学科

短信



四月、新入生を対象としたオリエンテーションキャンプが二泊二日の行程で行われました。同行してくれた学生ヘルパーの協力もあり、はじめは緊張していた新入生も次第に打ち解け、楽しんでいる様子が見られました。翌月には東京研修

旅行があり、仲間との親睦が一層深められたのではないかと思います。

六月には、体育祭が行われました。スポーツを楽しむだけではなく、近年ではユニークな仮装で登場する学生が多く、私たちの目を楽しませてくれます。

今年度はコース制導入後、初めての卒業制作展を迎えることとなります。七月に行われた卒業研究中間審査では、学生二人から論文・作品の概要について説明を受けました。黙々と制作を進める学生、まだ思案中の学生と進度は様々ですが、今後の制作方針を教員とともに検討する良い機会となりました。

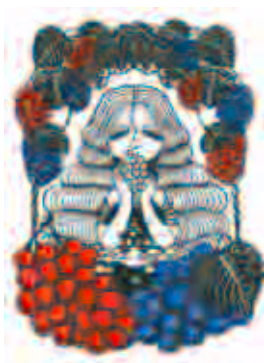
学外での作品発表・公募展への出品も積極的に行っています。晩翠画廊で行われた蒼龍ワインラベルコンペでは二年次高玉未来さんがヴィンテージジュ賞を受賞(写真参照)。三年次の相澤郁恵さんは、小学館新人コミック大賞で佳作に選ばれました。第六十四回モダンアート展では年次の石田悠太さんが、第八十八回国展(国画会)では四年次の根元佳奈さんが彫刻部で入選を果たしました。昨年度卒業した荒木香澄さんは第七十七回河北美術展にてJAL賞を受賞するなど、ジャンルを問わず活躍の場が広がっています。

主な地域貢献

活動(ワクワク一〇

〇ぶろじえくと)

としては、版画ゼミが仙台市泉区で行われた「第十一回さくら祭り」に参加。デザインゼミは旭ヶ丘ホテルまつりで巨大ポスター



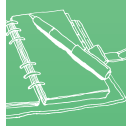
作成をお手伝いしました。

これから夏季休業に入りますが、集中・特別講義、ボランティア活動などまだまだ忙しい日が続きます。暑さに負けず体調に留意しながら、有意義な時間を過ごしてほしいと思います。



短大生活文化学科

短信



平成二十六年四月、食物栄養学専攻に四十七名、子ども生活専攻に六十四名、計百十二名が入学しました。平成二十五年度ももって生活学専攻は幕を閉じましたが、食物栄養学専攻は二年目を迎えて二年生がそろい、専攻としての体制が確立しつつあります。

今年度前期の主な行事を紹介いたします。

学科の行事

- 四月七、八日 一年生オリエンテーションキャンプ、二年生研修旅行(大童方面)
- 六月十四日 体育祭

食物栄養学専攻

二年生の実習

本専攻として初めての校外実習、就職活動を迎えています。

- 六月二日 メークアップ講座

油谷美恵子先生を招き、就職活動などにふさわしい基本的メイク法の実習を行いました。

- 六月～十月 校外実習

小学校、保育所、自衛隊、特別養護老人ホームなどで給食管理実習を行います。

- 八月下旬～九月中旬 フードエンタテインメント演習

株式会社江陽グランドホテル、菓匠三全、セントジエームズクラブ迎賓館(結婚式場)で、さまざまな食産業の現場で講習・実習を行い、食に対する見識を広めます。

一年生の実習

- 八月下旬 グループ単位で施設見学(短大附属ますみ保育園)

- 九月十七、十八日 施設見学(仙台医療センター、セントラルキッチン)

実際の給食管理の現場を見学し、栄養士の業務について理解を深めます。

子ども生活専攻

二年生の実習

- 五月十五日 マナー講座

浅野純子先生を招き、実習・就職活動に向けて講演していただきました。

- 五月二十六～六月六日、六月二十三日～七月四日 保

育所実習Ⅰ・Ⅱ

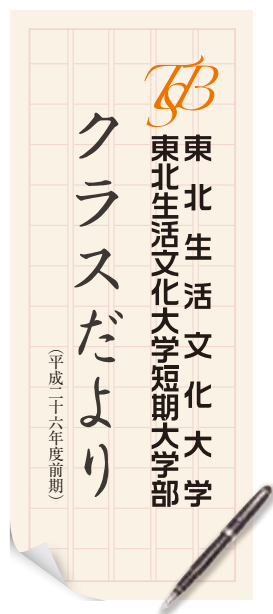
- 七月二十二日～八月四日 施設実習

一年生の実習

- 六月十日、十三日 幼稚園・保育所見学実習(短大附属ますみ幼稚園・保育園)、施設見学実習(丘の家こどもホーム)

- 九月二日 幼稚園基礎実習Ⅰ(短大附属ますみ幼稚園)





大学服飾文化専攻 1年

入学から三ヶ月が過ぎました。服飾文化専攻の二年生たちは、本学での生活にも慣れ、勉学や課外活動に積極的に向き合っています。筆者が担当する授業（スタートアップソーイング）では、縫製技術の基礎を習得するべく、真摯な態度で実習に臨んでいます。また、資格取得についても前向きな姿勢の学生が多いようです。教員免許や学芸員資格、衣料管理士等を取得するために学ぶ様々なことも、「教養」として人ひとりの身に付くと信じております。

本学での学びを通して、一つでも多くのことを身に付けられる四年間となりますよう願っております。

大学服飾文化専攻 2年

二年生になりました。新たな決意と目標をもって大学生活を送っています。「ファッションショーに参加したい」「専門科目をがんばる」「授業を休まない」など、それでも体調不良や寝坊などで授業を休んでしまう学生が何人かいます。全員が三年生に進級できるようにエールを送りたいと思っています。

今年は九月に三泊四日の研修旅行があります。参加する学生は十三名です。八月の集中講義で事前準備を行います。全員が「服飾文化」という専門分野への興味や関心を高めることができるように、また将来どのような職種に就職するかビジョンをもてるように、充実した研修にしたいと思っています。

大学服飾文化専攻 3年

早いもので大学生活も折り返し地点に入りました。学園生活では、毎月行われる学内行事などの企画に昨年度以上に、積極的に参加していました。特に、四月～五月下旬まで、毎日、授業の空きコマや、遅くまで衣装製作に励んでおりました。その姿を見ていると、学生達の服を作ることへの底知れぬこだわりと熱意を感じております。それと時に、下の学年に対して万全の体制で仕事をサポートしている姿が多く見受けられ、大変頼もしく感じております。次に、学業面ですが、以前よりも更に高度な専門知識を学ぶ授業の内容になっておりますが、着実に段階を経て課題などをこなしています。

さて、これから前期末試験が始まりますが、体調管理をしっかりして何とか乗り切つて欲しいと思います。更に後期からは、受動的な授業から能動的な授業の参加が求められる「課題研究Ⅰ」が控えております。授業を通してひとまわりもふたまわりも大きく成長できるように目配りをしていければと考えております。

大学服飾文化専攻 4年

いよいよ四年生になりました。就職活動や教育実習、課題研究などで、服飾四年生たちは忙しく過しています。内定が得られた学生もだんだんと増え、卒業後の進路も固まりつつあります。それだけに卒業までの時間はとても貴重です。四年生たちはそれをよくわかっていて、みんなと一緒で過ごせる時間を大切にしています。六月の体育祭も抜群の一体感をもつて参加し、心に残るものになったと思います。

大学生活の残された日々、一日一日を大切に過ごして、心の内の宝物を増やして行つてほしいと願っています。

大学健康栄養学専攻 1年

健康栄養学専攻では、新入生四十六名を迎えました。学生たちはガイダンス、オリエンテーションキャンプ、履修登録などの学事をこなし、前期の授業に取り組んでいます。五月中旬から実施した担任との個人面談では、授業で分からない点は放置しないこと、勉強する習慣を身につけることを全員に指導いたしました。料理の好きな者、クラブやサークル等の学友会活動に参加している者が多いことが印象的でした。

た。六月の体育祭では、女子がバスケットボールで準優勝しました。七月に入り、暑い日が多くなっておりますが、健康面に気を付けて前期試験、夏休みを迎えてほしいと思います。

大学健康栄養学専攻 2年

大学生活も二年目に入り、後輩ができて学生の動きが活発化したように感じます。今年は、学友会の活動に進んで協力する学生が増え大変喜ばしく感じております。六月の体育祭においては、クラスの男子は三人ですが、他専攻の学生と力を合わせて二年生としてバレーボール・バスケットボールで優勝したとの報告を受けました。

七月末には前期試験、八月には家政特別講義の一日研修があります。これから暑くなると体調を崩しやすいので、自己管理をきちんとして学生生活で最も自由に過ごせる二年生の夏休みを迎えてもらいたいと思います。

大学健康栄養学専攻 3年

六月七日の後援会総会、懇談会・個別面談にご参加いただき御礼申し上げます。クラスの様子として、校外実習が始まり小学校で実習した学生が戻ってきました。十月の自衛隊での実習までそれぞれの実習先で実習を行ってきます。初めての実習で戸惑うことも多いと思いますが、多くのことを学んでくれることを願っています。また、国家試験に向けての勉強も始まりました。過去問集と生化学の問題集を渡しておりますので、ご家庭でもどのような問題に取り組みのかわ確認していただけると幸いです。

体育祭では、クラス内チーム以外にも他専攻の学生とチームを組むなど大活躍でした。各種競技での健闘によって大学三年生が総合優勝を勝ち取りました。

大学健康栄養学専攻 4年

いよいよ最終学年を迎え、学生たちは皆、次々迫る試験に不安を抱えながらも果敢に立ち向かっています。

就職活動では、既に春休みから会社説明会や採用試験に赴き、次々と内定者が出ています。臨地実習は六月中旬から本格化し、病

院や保健所での実習で貴重な経験を積んでいます。また国家試験に向けて、既に三回の模擬試験を終え、勉強の手ごたえを感じる者、厳しい現状に身の引き締まる者、とそれぞれですが、日々、寸暇を惜しんで参考書を広げています。さらに課題研究もこれから論文執筆に向けて活動が本格化することです。

多くの難関を克服すべく、多忙な日々を送っていますが、皆がこれらをすべて乗り越え、希望の未来への道を切り開いてほしいと願っています。

大学生生活美術学科 1年

大学が始まり今年も初々しい新入生が入ってきました。オリキャンの後、五月に二年次の東京美術研修があり東京都美術館でバルチウス展を皆で見ました。その後各グループで有意義な研修を行い両国の宿に泊まりミーティングを行い無事仙台に戻ってきました。六月の体育祭の様子でも四月から三月月過ぎてクラスは良くまとまっているようです。今後、最初の期末試験があり夏休みが控えています。この間に学科内コンクルの準備をし、思い切り制作をしてもらいたいと思います。

大学生生活美術学科 2年

生活美術学科二年生は学業以外にも各コンペ等に出品、受賞したり、学内食堂ガラス面に季節を彩る「ガラスアートプロジェクト（継続実行中）」を積極的行うなど忙しい毎日の中で、大学全体を盛り上げてくれる頼もしい学年です。その他すでに始まっている介護等体験、またインターンシップや美術鑑賞旅行を控えている学生もおります。

新年度スタート時に行った個人面談において新たな目標を伺い知ることができ、個々の活躍が期待される一年かと思われまふ。来年三年次には四コースにそれぞれ分かれ、自身がどういった方向性を見出せるか、この二年生の内に視野を広めてもらいたいと思っています。

大学生生活美術学科 3年

学生生活も折り返し地点を過ぎ、四月からコース毎に分かれて勉学に励んでいます。新たに技法研究の授業が開講され、卒業制作に

向けた専門的な知識と技術の習得を目指し、日々制作に取り組んでいます。また、公募展や他大学との交流展に参加するなど、活躍の場が全国に広がっています。学友会活動の運営、ゼミ活動では、後輩を指導する立場としても期待を寄せています。

今後は、就職活動にも意識を向けていく時期となります。夏季休業中に開催される就活対策講座などにも積極的に参加し、将来の可能性を自分自身の目で見つけて欲しいと思います。

大学生生活美術学科 4年

四年次は、心配事やストレスあるいは、喜怒哀楽といった気分が気に押し寄せる学年だともいえるでしょう。ほとんどの学生が「来年四月から社会人になっている」という事実と「目の前のやるべきこと」を考えると、学生たちは現在の過ごし方に緊張を強いられます。これを上手に切り切つて「充実した時間を過ごせた」と振り返ってもらいたいものです。

具体的には、卒業研究（論文または制作）と就職活動を中心に教育実習、教員採用試験、ボランティア活動やアルバイト等のいくつかを同時に行うこととなります。

最終的には、二月の卒業制作展に照準を合わせ、自分の持てる力を出し切ってもらいたいと思います。

短大食物栄養学専攻 1年

栄養士免許取得を目指して入学し三カ月が過ぎました。五月の面談では「忙しいけれど楽しい・充実している」という声が多く聞かれました。入学時のスタートラインは様々で、調理師免許を持つ学生から調理経験のほとんど無い学生までいました。高校で栄養士に必須の化学を履修していない学生や栄養計算に必要な数の概念が不得意な学生もいて、それぞれが自分の足りないところに向き合い努力を重ねています。短大生の特徴である「早く働きたい」という前向きな意欲を受け止め、二年間で「安全でおいしい食事提供」ができる栄養士を養成したいと思っています。

短大食物栄養学専攻 2年

四月に新入生を迎え、春の研修旅行では「頼もしい先輩」として二年生が後輩の履修指導をサポートしました。また、六月から始まったオープンキャンパスでは、昨年度の経験を活かし、二年生を引張つてボランティアをしています。こうした姿を見て、彼らの二年間での成長を強く実感している次第です。

食物栄養学専攻二期生として初の校外実習がスタートし、六月から十一月にかけて二週間の実習を行っています。各自の実習期間に合わせて準備をしながら、授業に、就職活動に、ボランティアに、生懸命頑張っております。彼らの健闘を期待しております。

短大子ども生活専攻 1年

入学後、毎週金曜日の十二時十分からホームルームを行っており、担任が教室に入ると、「こんにちは」と明るく元気で爽やかな挨拶が教室いばいに響き渡ります。しつかり声を出して挨拶ができる保育者を目指してほしいと思っております。六月中旬に行われた体育祭では、スタッフとして活躍したり、バレーボールやバスケットボールなどで活躍したりなど大いに盛り上がりました。今後は講義での学びはもちろん、大学祭への取り組み等を通して、社会人基礎力としての「考える力」「踏み出す力」「チームワーク」をしつかり身につけて、全員が夢の実現に向かってほしいと願っているところです。

短大子ども生活専攻 2年

子ども生活専攻二年生は、四週間の保育所実習Ⅰ・Ⅱを終え、安堵の表情を浮かべています。それと同時に四週間に亘つて保育の現場で頑張ってきたことで、将来の保育者としての自覚と自信がついたように見受けられます。この間に行われた体育祭では、皆で二丸となり、好成績を収めることができました。七月二十二日からは、二週間に亘る施設実習、十月六日からは四週間に亘る幼稚園実習に向かいます。ハードスケジュールの中で実習に就職活動に学校行事にと精力的に活躍する学生たちの姿は、頼もしいばかりです。短大生活も残すところわずかになってきましたが、卒業までの大切な時間が充実したものであるようにと心から願っています。

大学家政学科 教授

佐藤 靖子

専門分野: 食品組織学

主な担当科目: 食品加工学、食品加工実習、食品学各論、調理科学実験



「食べ物の美味しさを見ることはできるでしょうか」

仙台にきた最初の夏に、デパ地下で人々が大行列をなすカマボコ店があり非常に驚きました。その時の「うちのだって美味しいのに」という他店舗のつぶやきが強く記憶に残りました。その後、食品の組織構造を学ぶ機会に恵まれ、カマボコの美味しさの違いを見てみたいと指導教授に話した際、一瞬おいて了解され、数種類の市販品を購入して標本を作製しました。興味津々に顕微鏡を覗いて見ると、変形した物質（デンブ）、鋸状の物質（鱗）、色鮮やかに染まったタンパク質など、次々と目に飛び込んでくる像にワクワクしたものです。さらに、原料となる魚から作ったすり身も標本にしました。それらから得られる情報は多く、まともに四苦八苦していた時、先の一瞬の間の理由が告げられたのです。「食肉を追加します。」まさか解体から・・・？本来は解体から・・・その時は、熟成された食肉を渡されたものの、まとめるべき資料はますます膨大になっていきました。

食品組織学の魅力は、食品の固定、薄切、染色を終えて観察する標本が、いかに美しく仕上げられたかです。研究を始めた頃は、標本の皺、ナイフマーク、ゴミ、染色斑などでがっかりすることが多かったのですが、美しく仕上がった標本からは、物質の存在や変化の状態がはっきりと確認できます。さらに、それらの組織構造は、食べ物の食感と関連しています。カマボコでは、製品によってデンブと気泡の割合に違いがあり、弾力性と関連しています。

最後に、食べ物の美味しさを見ることはできるでしょうか

個人の嗜好による美味しさを見ることはできません。しかし、多くの人が好む食品の組織構造には特徴があり、その特徴は美味しさを示すと考えます。

大学家政学科 助教

八巻 美智子

専門分野: 家政学関係、食品学

主な担当科目: 家政学原論、食品学実験



大学院では食品分野その中でも主に大豆タンパクについての研究を行いました。内容としては、新しい調理法の開発ということで通電処理というものに着目しました。食品に通電処理を行うと物性が変化するのではないかと実際に豆乳に通電処理を行ったところ豆腐の様なものができました。それについて保存試験や変異原性試験などを行い食品としての安全性を確かめ、さらにそのメカニズムについても検討しました。この研究は身近な食品を目に見える形で変化させていくものでしたので、研究初心者の方にとって、とても面白い実験でした。また、研究としても有意義なものでありましたので、この通電処理を他の食品の系へ応用できないかと考え次に着目したのが小麦粉です。小麦粉は皆さんもご存じのように強力粉と薄力粉と中力粉があります。これらは蛋白質量が違い、強力粉11～13%、中力粉10%、薄力粉8%です。そこで、薄力粉に通電処理を行うとどうなるのか？結果は薄力粉のみでも強力粉の様な特性が表れる事がわかりました。このことをモデル食品としてうどんを作製することにより評価しました。通電処理も様々な電極を用いて現在も検討中ですが通電処理を行うことで食品そのものの物性を改変させ、アレルギーの低減化などにもつなげていければと考えています。また、現在はヒトの味覚についての研究も行っています。味覚には甘味、塩味、苦味、酸味、うま味と基本の五味がありますがなかでも「苦味」についての研究を行っています。こちらの研究はまだ始めたばかりで、試行錯誤の毎日ですが周りの方のサポートを受けて日々励んでいます。今後のテーラーメイド栄養の発展に貢献できればと考えております。

私の研究

短大生活文化学科 講師

済渡 久美

専門分野: 栄養学

主な担当科目: 栄養指導論、栄養指導実習、調理学実習、子どもの食と栄養など



私は重度の嚥下困難者が安全に摂取できる嚥下調整食について、物性を中心に研究を進めています。取組んだきっかけは、高齢者介護施設で管理栄養士として栄養マネジメントを行う中で、栄養補給ルート選択の難しさに直面したことからです。高齢者の栄養管理の現場では、入所者一人一人の摂食機能状態や栄養状態を把握した上での適切な栄養補給法の判断と対応が求められ、取組んでいました。そこでの迷い・疑問は、「ヒトが口から食べられる限界点はどこにあるのだろうか？」ということでした。円滑な嚥下が困難になり、誤嚥性肺炎を繰り返すことで、身体に及ぼすストレスが増大し、身体状態、栄養状態が悪循環サイクルに入っていくのが観察されると、経管栄養への切り替えの提案が自・他職種より行われます。その一方で、本人や家族からは「可能な限り口から食べたい・食べさせたい」という要望が出されます。食べる楽しさと誤嚥の危険が背中合わせの状態の中、経口摂取継続の支援を選択した場合、食事提供の最重要課題は安全な食品物性でした。そんな折、幸いにこの分野で研究を進めておられた師に出会い、嚥下困難者に適した食事の物性発現の手法に取組み、現在進行中です。

適した食形態の条件として、かたさ、付着性（べたつきやすさ）、凝集性（まとまりやすさ）があげられ、これらの条件を可能にするものとして、増粘多糖類があげられています。そこで、種々の増粘多糖類を添加した食品の物性を測定し、数値データとして客観的に評価することで、組み合わせる食材に対する特徴や傾向などの性質を明らかにすることに取組んでいます。管理栄養士としての現場を離れた私がこの分野で貢献できることは何か、ということを中心に考えながら細く長く継続していきたいと思っています。

短大生活文化学科 教授

朝倉 清

専門分野: 教育学

主な担当科目: 教職概論、学校食育概論、保育内容「健康I・II」



公立小・中学校の教員として38年間勤務し、御縁があり本学で標記科目の講義を担当させていただいております。教職概論については、38年間の実践事例を織り交ぜながら講義しております。学校食育概論は、小学校教員の時に長年学校給食研究部会に所属し、教員仲間と研修をしていましたのでそれをベースに講義を進めております。

学校給食に長く関わっていましたが、児童・生徒の食物アレルギー疾患の増加が指摘されるようになって来ました。また、それに伴う児童・生徒の事故も全国的に起こり、その対応が必要になってまいりました。仙台市の教育局では教員・保護者・医師による「食物アレルギー対応検討委員会」を設置しました。私もそのメンバーの一員に加えていただき、様々な観点からの協議を通して対応マニュアルの作成にこぎつけるとともに、大いに研修を深めさせていただくことができました。

その後もなく、文部科学省から「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドラインについて」が出され、学校やクラスに各種のアレルギー疾患をもつ児童生徒がいることを前提とした学校保健の取り組みが求められるとともに、それが医師の指示に基づくものとなるような仕組みづくりが実施されるよう提言されました。

教育現場では、安全・安心で栄養バランスの取れた学校給食の提供とともに栄養教諭等による「食に関する指導」が推進されています。命を守る食が日々楽しい食となることを願って、教育の道を志す学生の皆さんに今後も講義していきたいと思っています。

中国・徳力格爾先生講演会

五月十六日、国際交流委員会と短期大学部との共催による生活文化学科講演会が本学百周年記念棟の記念ホールにて行われました。これは新設の食物栄養学専攻が今年度完全移行したことを記念して実施されたものであり、今回は同専攻の特別講義として、中国・内蒙古師範大学の徳力格爾先生を講師に迎え、「中国の生活文化を取り巻く現状と子どもたちの健康問題」というテーマでお話いただきました。現在、徳力格爾先生は大学で研究をする傍ら、内蒙古自治区教育委員会で学校体育・衛生や栄養改善に関する仕事にも携わっており、中国農村義務教育、学生栄養改善計画に関する内蒙古自治区管内の責任者、そして、同自治区の学生の健康と体力に関する研究プロジェクトの代表者の一人として行政と研究をつなぐ中心的な役割を担われている先生です。なお、先生は日本での留学経験と「自分の言葉で直接学生に語りかけたい」との思いから、英語や中国語ではなく、日本語で行われました。

講演では、日本とは異なる社会制度や歴史背景を持つ中国における人々の生活や社会情勢について、豊富な情報と具体的な事例を挙げながら分かりやすく紹介いただいた後、学校保健や公衆栄養分野における現状と施策等に関し、特に内蒙古自治区での取り組みと課題を中心に解説していただきました。

当日は、短大二年生、並びに食物栄養学専攻二学生のほか、大学の健康栄養学専攻の学生、そして、浅尾理事長や秋葉学長をはじめとする教職員を含め、総勢二〇〇人以上が聴講しました。食・栄養分野のエキスパートを目指す学生に向けて徳力格爾先生が発した熱いメッセージは、単なる国際交流や異文化理解といった枠を越えて、学生二人一人の胸に伝わったのだらうと思います。



大学・短大後援会総会

あいにくの雨降りとなった六月七日(土)、午前十時から大学・短大後援会の役員会が百周年記念棟会議室で開催されました。平成二十五年年度事業報告、決算、監査報告、本年度の事業計画案、予算案、役員人事案が、事務局提案のとおり承認されました。そして会場を百周年記念ホールに移して午前十一時から定例総会が開催されました。教職員を含む出席者数百四十人、委任状三百四十六通でした。議事の前に、学長から本学の教育方針及び特色と今年度になってからの学生たちの学習や諸活動についての説明を兼ねた挨拶がありました。総会においても事務局提案の議事は、原案通りに承認していただきました。総会の最後に、長年後援会役員として活躍していただき、この総会をもって退任となった八巻前副会長に、会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

総会後、ホールで学生課長の「就職活動と保護者の支援」と題する講話があり、就職活動開始時期の後ろ倒し(本紙最終頁「就職支援センターから」を参照してください)について説明がありました。

午後一時から学科・専攻別懇談会に移り、その後保護者と担任との個別面談会を実施しました。学科・専攻別懇談会では、学習や実習の状況、学友会活動や学生生活の状況・卒業生の進路状況と今後の就職状況などについて先生方からの報告があり、学科によつては学年ごとの合同懇談会を行ったところもありました。個別面談会は昨年度から設定しましたが、ご両親共に出席した方や、県外から出席した方など、有意義な情報交換が行われました。



事務職員紹介

八月に差しかかると、学生さんたちの姿を見る機会も徐々に減り、事務室の窓口にいる私にとっては少々寂しい季節になってきました。

私が担当する主な業務は、奨学金や学研災・学研賠といった保険の手続きに関するものです。特に、奨学金の手続きについては学生さんと直接やりとりをすることも多く、一人ひとりにわかりやすく説明することをも心掛けています。現在、入職して三年目になりますが、今年度は資格の取得にもチャレンジしたいと思っています。



学生課 小林 裕人

人事異動

退職の教職員

大学 副 手 高橋 篤子
(平成26年3月31日)

新任の教職員

短大 講 師 永沼 孝子
(平成25年10月1日)
副 手 乗田 ふみ
(平成26年4月1日)
事務職員 伊藤 浩平
(平成25年11月1日)

PHOTO ALBUM



「入学式」

大学・短大新入生計196名をお迎えし、平成26年度の入学式を挙行了しました。



「キャリアサポート」

今回は、フリーアナウンサーでもあり、話方コンサルタントでもある志伯暁子先生をお招きしました。



「凧を作って遊ぼう!」

長命館公園「第11回さくら祭り」において、生活美術学科版画ゼミナールがワークショップを開催しました。



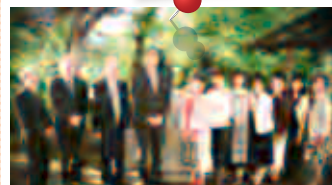
「避難訓練」

4月24日(木)、12時55分、震度6強を想定した避難訓練を実施しました。



「三島学園香風会奨学制度 在学生学業奨励金交付式」

大学・短大から4名の学生が選出され、5月27日(火)に交付式を行いました。



「和洋女子大、来学」

6月1日(日)、千葉県市川市にある和洋女子大学の岸田学長ならびに高梨同窓会長、同窓会宮城県支部の方々6名が本学にいらしていました。



「体育祭」

6月14日(土)、体育館ではバレーボール、バスケットボール、グラウンドでは運動会リレー、ガチリレーが晴天のもと実施。各クラス一丸となって競技に臨みました。



「ブロンズ像「のぞみ」設置」

大学3号館の東側エントランスにブロンズ像「のぞみ」(制作:1960年頃/阿部正基氏作)が設置されました。この像は勾当台公園にあるものと同じ作品です。



「みやぎ県民大学」

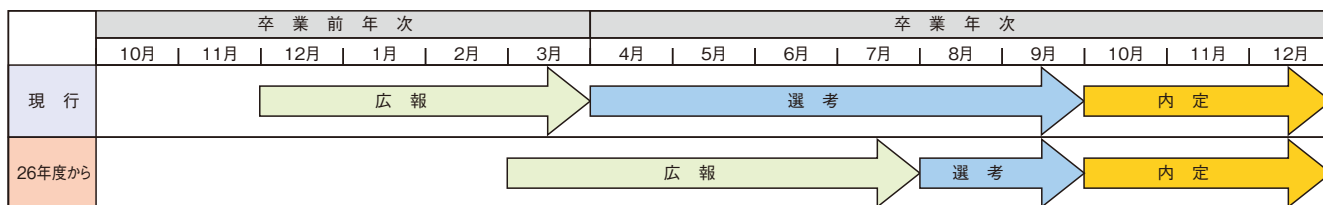
平成26年度みやぎ県民大学 学校等開放講座「不思議な素材を用いて、新しい生地をデザインしてみませんか?~フリーレースのコーサージュ製作~」を開催しました。

就職支援センターから

◎就職活動の開始時期が後ろ倒しになります!

現在の大学3年次生と短大1年次生から就職活動の開始時期が後ろ倒しになります。現行では大学4年次生と短大2年次生については、卒業前年次の12月から企業が求人のための広報活動を開始し、それぞれの企業が個別や合同で学生を対象にした説明会を開催できました。学生たちはリクルートスーツを着てあちこちの企業説明会に出かけ、場合によっては仙台から東京まで出て行って説明会に参加してきました。そして、卒業年次の4月から選考試験が開始され、学生たちはまたまた県外も含めて試験会場に何度も向かっています。卒業年次の10月から企業は学生に内定通知を出すことができることになっています。

就職開始時期の後ろ倒しになると、卒業前年次の3月から企業の広報活動が開始になり、卒業年次の8月から選考試験が行われ、10月から内定が出されることになります。これをまとめると下の図のようになります。



後ろ倒しの結果、選考試験の期間が短縮されるため、短期激戦型の就職活動になると考えられています。公務員試験と民間企業の試験が同時期に実施されるなど、来年の8・9月は学生にとって本当に多忙になることが想定されます。

しかし、逆に考えれば、これまでよりも就職への準備期間が長くなったとも言えます。このメリットを生かして、なるべく早くから筆記試験のための基礎学力を身につけ、面接で対応できるマナーを身につけることができるように、就職支援センターでは指導していきたいと考えています。

TSB 東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結ぶ懸け橋となることを願って命名しました。

2014年3月に発行いたしました「広報TSB (Vol.4)」におきまして誤りがございましたのでお詫びして訂正申し上げます。

○P1 巻頭言「地域とともに」1行目 (誤) 学園が東三番町から → (正) 学園が清水小路から

広報TSB 第5号

〔発行〕平成26年(2014年) 8月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <http://www.mishima.ac.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb